

# 令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	高等学校 改訂版標準現代文B			副教材	改訂版標準現代文B 学習課題集				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点					学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				①	②	③	④	⑤	学習のねらい
1 学期	4	世界を見つめる	食と想像力 文章の構成を理解する。	○			○	◎	1学期は、種類の異なる3つの文章を通じて、作者が伝えようとしていることを適切に読み取る力を身につけます。登場人物の心情や文章の背景を分析し、必要な情報を自ら選択し、内容を整理する方法を身につけます。 2学期は読書活動を通じて、自らの内面を豊かにしていくことを学びます。作品に触れながら、自らの人生と重ね合わせ、これからの生き方について考えていきます。また、文章を通じて感じたことを適切な言葉で表現する力を養います。 3学期は、小説を中心に、内容の適切な理解と、読み取ったことを、適切に表現することを学びます。また、俳句の観賞及び作成を通じて、日本の伝統的な文学や言葉の美しさ、表現技法の複雑さを感じとり、もの見方やとらえ方の多様性を学びます。
		小説を読む(一)	ひよこの眼 人物や環境の読解を通して小説を読む力を身に付けさせる。				◎	○	
	5	小説を読む(一)	食と想像力 筆者の主張を読み取る。				○	◎	
		小説を読む(一)	ひよこの眼 人物や環境の読解を通して小説を読む力を身に付けさせる。				◎	○	
		新しい視点	記憶のゆがみ 論理的な文章の基礎的な読解技術を習得する。				○	◎	
	6	新しい視点	記憶のゆがみ 論理的な文章の基礎的な読解技術を習得する。				◎	○	
		新しい視点	記憶のゆがみ 論理的な文章の基礎的な読解技術を習得する。				◎	○	
7	詩を味わう	食事・ころも・日本海 詩に描かれた心情を理解する。 詩を読み味わう。				○	◎		
	詩を味わう	食事・ころも・日本海 詩に描かれた心情を理解する。 詩を読み味わう。				◎	○		
2 学期	8						○	◎	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、もの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てます。
	9	生への思索	僕らの時代のメディア・リテラシー キーワードに注目しながら、要約させる。				○	◎	
	9	生への思索	僕らの時代のメディア・リテラシー キーワードに注目しながら、要約させる。				◎	○	評価の観点 ①：関心・意欲・態度
		人間と社会	経験の教えについて 論理的な文章の構成を知り、筆者の論を正確に読み取る。				○	◎	
	10	小説を読む(二)	バクダッドの靴磨き 語り手や登場人物の心情と、その変遷を的確に捉える。 中間調査				◎	○	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝えあおうとする。
		小説を読む(二)	バクダッドの靴磨き 語り手や登場人物の心情と、その変遷を的確に捉える。 中間調査				○	◎	
	11	短歌と俳句	折々のうた 作品を音読・朗読し作者の意図と心情を理解する。				○	◎	②：話す・聞く能力 読解した内容や、自分の意見を適切な言葉で表現することができ、他者の意見を正しく理解できる。
		小説を読む(三)	山月記 文学史をまとめる。					○	
	12	小説を読む(三)	山月記 文学史をまとめる。				◎	○	③：書く能力 文章の内容を整理でき、自らの考えを正しい文章で簡潔に書くことができる。
		小説を読む(三)	山月記 文学史をまとめる。				◎	○	
3 学期	1	小説を読む(三)	山月記 登場人物の心の動きを読み取る。				○	◎	④：読む能力 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
		小説を読む(三)	山月記 登場人物の心の動きを読み取る。				○	◎	
	2	家庭学習							⑤：知識・理解 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
		家庭学習							
		家庭学習							
3								備考	

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：話す・聞く能力 ③：書く能力 ④：読む能力 ⑤：知識・理解

◆学習方法のポイント

- 読解力を身につけよう。
- 語彙力を増やそう。
- 自分の意見を言葉や文章で表現できるようになろう。

【授業】

- 講義形式の授業です。週2時間あります。
- 教科書を読み、指示語や心情などを読解します。また、キーワードなどを確認することで重要な部分を読みとれるようにします。
- 語句の意味、用法を確認し、語彙の知識を増やします。
- 作文を書いたり、話し合いをしたりして、自分の考えをまとめるとともに、他人の考えを聞き、自分の思考を深めます。

【家庭学習】

- 語句調べや、漢字の書き取り、人物について調べる。
- わからない語句は自分で辞書を引き、調べることが大切です。語彙力が増えると国語の力は必ずついてきます。
- 本を読んだり、新聞を読んだりすることを、毎日続けることが基礎的な読解力につながります。

【定期考査】

- 教科書を何度も読み返し、「どうして？」の疑問に答えられるようになろう。
- 問題集やワークなどの問題を繰り返し解こう。
- 漢字や国語常識の問題は日頃からコツコツ取り組んでおこう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解の五つの観点から評価します。ただし、定期考査を重視します。			
評価の規準	1 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等		
	2 学期	中間考査、期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等		
	3 学期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③④⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等		
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均		